



S.Okada

THE ASAHI HAI  
FUTURITY STAKES

第77回 朝日杯フューチュリティステークス (GI)

1着 70,000,000円 2着 28,000,000円 3着 18,000,000円 4着 11,000,000円 5着 7,000,000円  
付加賞 1,036,000円 296,000円 148,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

牡・牝、2歳、除え不出走馬および未勝利馬

負担重量 馬齢重量

2025.12.21 阪神 小雨・重 芝1600m (国際) (指定)

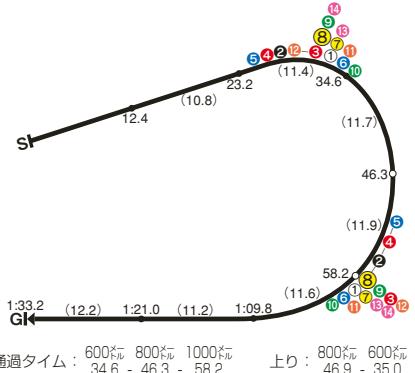
順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー (着差)	上り	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧ カヴァレリツツオ	牡2	56	C.デムーロ	1:33.2	7-8	34.3	482(+4)	3.6(2)	吉岡辰弥(栗東)	116
2	⑩ ダイヤモンドノット	牡2	56	C.ルメール	%	1-1	35.1	472(+4)	8.3(5)	福永祐一(栗東)	114
3	⑫ アドマイヤクワッツ	牡2	56	坂井瑠星	1	11-8	34.6	478(±0)	3.1(1)	友道康夫(栗東)	112
4	③ エコロアルバ	牡2	56	松山弘平	%	7-8	34.7	474(+2)	4.9(3)	田村康仁(美浦)	111
5	⑯ アリアライズシリウス	牡2	56	津村明秀	2½	4-4	35.4	530(+12)	4.9(4)	手塚貴久(美浦)	106
6	① グッドビース	牡2	56	西村淳也	1½	4-4	35.5	458(-8)	92.2(0)	高野友和(栗東)	103
7	② ホワイトオーキッド	牝2	55	北村友一	アタマ	12-12	35.0	428(+6)	124.7(0)	藤原英昭(栗東)	101
8	⑥ タガノアラリア	牡2	56	F.ジェルー	アタマ	2-2	35.7	452(+8)	50.7(8)	西園翔太(栗東)	103
9	⑤ ストームサンダー	牡2	56	岩田康誠	1	14-14	34.5	460(+2)	240.7(9)	安達昭夫(栗東)	101
10	④ コスマレッド	牝2	55	藤岡佑介	クビ	13-13	34.8	444(-8)	221.4(3)	北出成人(栗東)	99
11	⑦ コルテオソレイユ	牡2	56	川田将雅	1½	4-4	36.0	458(+2)	22.2(6)	佐藤悠太(栗東)	98
12	⑪ カクウチ	牡2	56	岩田望来	1	2-2	36.4	452(+4)	82.9(9)	小嶋 肇(栗東)	96
13	⑯ レッドリガーレ	牡2	56	吉村誠之助	%	7-4	36.2	462(-8)	206.0(2)	齊藤崇史(栗東)	94
14	⑨ スペルーチェ	牡2	56	三浦皇成	アタマ	7-8	36.1	456(-4)	38.6(7)	宮田敬介(美浦)	94

単勝①360円(2%) 櫻賞⑧140円(2%) ⑩210円(5%) ⑫130円(1%) 枢連⑤-⑥900円(5%)

馬連⑧-⑩1,390円(6%) ワイド⑧-⑩490円(6%) ⑧-⑩230円(1%) ⑩-⑩560円(8%)

馬単⑧-⑩2,280円(10%) 3連複⑧-⑩-⑫1,290円(3%) 3連単⑧-⑩-⑫7,510円(20%)

5重勝⑤⑨⑩⑪⑫730,820円(716票) 対象競走: 中山10R/阪神10R/中山11R/中山11R/阪神11R



### アラカルト

- ・C.デムーロ騎手は朝日杯フューチュリティS初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算16勝目
- ・吉岡辰弥調教師は朝日杯フューチュリティS初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算7勝目
- ・サートゥルナーリア産駒はJRA重賞通算5勝目

## カヴァレリツォ *Cavallerizzo*

牡 鹿毛 2023.2.28生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・(有)シルクレーシング 栗東・吉岡辰弥厩舎  
馬名意味・曲馬師(伊)。母名より連想

		バラダセールARG系 F	
サートウルナーリア 黒鹿毛 2016	ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ	
	シーザリオ 青毛 2002	レディブラッサム	
	ハーツクライ 鹿毛 2001	スペシャルウイーク	
	バラダセールARG 鹿毛 2008	キロフブリミエールGB	
バラーディスト 黒鹿毛 2016	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA	
	バラダセールARG 鹿毛 2008	アイリッシュダンス	
		Not for Sale	
		La Balada	

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4

## INTERVIEW

## 佐々木淳吏 厲金長(ノーガンファーム空港)

まだまだ強くなると思います

最初の印象としてはトップラインの薄い馬で、運動で成長を促しながら競走馬としての土台となる部分を作っていくと思いました。力強さが出てほしいと思っていた一方で、フットワークの良さが目立っており、将来は楽しみだと期待しているのですが、2歳戦からこれほどのレースを見せるとは想像以上です。成長を重ねながら、まだまだ強くなる馬だと思います。

## 父サートウルナーリア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 詳細はP.2参照

## 母バーティス

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央19戦3勝

**カヴァレリッツォ** 本馬(23 牝父サートゥルナーリア)中央3戦2勝(朝日杯  
フューチュリティS<sub>Ⅰ</sub>、デイリー杯2歳S<sub>Ⅱ</sub>2着)獲得総賞金93,624,000円  
(24 牝父ロードカナロア)  
(25 牝父リオンデノーズ)

### 祖母バラダセールARG

亞、仏、首5勝(亞オークス<sup>G1</sup>、亞1000ギニー<sup>G1</sup>、ルイスマリアカンボス將軍賞・亞<sup>G2</sup>)、亞3歳牝馬チャンピオン、12年輸入

バラダガール(14 牝父ハーツクライ)中央2勝、ニューバラード ④(香取特別)の母

ダンサー(15 牝父ハーツクライ)中央3勝(鹿野山特別)、カラマティアノス(現)こうやまき賞、共同通信杯G3 2着)の母

### バラーディスト(16 前出)

サトノフラッグ(17 牡父ディープインパクト)中央3勝(弥生賞ディープインパクト記念GⅡ、セントライト記念GⅡ 2着、エプソムC GⅢ 2着、菊花賞GⅠ 3着、日経賞GⅢ 3着)、種牡馬

サトノレイナス(18 牝父ディープインパクト)中央2勝(サフラン賞、桜花賞  
G1 2着、阪神ジュベナイルフィリーズG1 2着、日本ダービーG1 5着)

曾祖母ラバラダ La Balada

アルゼンチン産 亜1勝

ラバロカ La Barroca(04 北父Slew Gin Fizz)両2勝(パナマ共和国賞G3着)

リリオペ Liriope(05 牝父Honour and Glory)母6勝  
キシコ賞G3、アルベアル将軍賞・L、アレナレス将軍賞G3、アナシオラ賞G32着、ラヴバージェ将軍賞G33着

## バラダヤールARG(08 前出)

リスニア Lithuania(10 牝父Roman Ruler)亞1勝、ライマ Laima(カ  
ルロストムキンソン賞・西G.)の母

ルブルーズ Le Blues (12 牡 Roman Ruler) 亜2勝(亜2000ギニー<sub>G1</sub>、亜ジョッキークラブ大賞<sub>G1</sub>2着、オールドマン賞<sub>G3</sub>2着、アルゼンチン共和国大賞<sub>G1</sub>3着、エストラレスマイル大賞<sub>G1</sub>3着)

ラヴリーモーメント Lovely Moment(14 牝父Equal Stripes)△4勝(パセアナ賞G3着)

N. Inaba



前週の2歳女王決定戦とは一転、朝日杯フューチュリティSには4頭の重賞ウイナーが揃い踏み。なかでも無傷の戴冠をかけて挑むデイリー杯2歳Sの王者アドマイヤクワッズが一番人気の支持を集めた。しかし勝利を飾ったのはその2着馬カヴァレリツォ。他の重賞勝ち馬を従え、対抗候補と目されていたサートゥルナーリア産駒が接戦に競り負けた前走の雪辱を果たし、2歳牡馬マイル王の座へ駆け上がった。 穏やかな好天に恵まれた前日とは打って変わつて、早朝から冷たい雨が降り続いた阪神競馬場。1975年(不良)以来、実に50年ぶりに道悪(重)を舞台に争われたレースは、他馬の出方

を窺つように飛び出した京王杯2歳Sの覇者ダイヤモンドノットが主導権を握る。新潟2歳Sを圧勝したリアライズシリウスは4番手集團の外を進み、サウジアラビアロイヤルCを豪快に差し切ったエコロアルバは折り合いに専念しつつ、序盤の好位から中団に位置を下げる。その背後につけたカヴァーリツツオのC・デムーロ騎手が3コーナーでこれに並びかけたのに対し、アドマイヤクワッズは2頭から3馬身ほど離れた後方で末脚を温存した。快調に飛ばしたダイヤモンドノットは直線に回るとさらに加速し、好位勢を突き放す。残り200m地点でもリードはまだ3馬身。押し切りは濃厚と

に対し、内を突いた鞍上のリードに心えでパワフルな夫脚を繰り出し、粘りに粘る逃げ馬を差し切った。

8月のドビューウー戦(中京・芝1600m)は、馬身差で完勝、続くデイリー杯2歳Sはアタマ差で競り負けたものの、レコードを記録した勝ち馬と同じ等の能力は示した。この日は初体験の道悪も難なく克服し、前走の雪辱とサートゥルナーリア産駒初のGI制覇を果たした本馬。血統、レースぶりからも距離の融通性は高そうで、新年はなるべく飛躍に期待がかかる。